

自然保護と観光の両立に関するロードマップ

- 自然保護と観光の両立WGにおいて検討を行い、今後5年間で取り組むべき事項を提言として取りまとめ。
- 各項目の実施体制や進捗評価のための指標について、更なる検討・調整を進める必要がある。

自然保護と観光の両立



ロードマップ案（自然保護と観光の両立）

注）地域：（奄美）群島、奄美大島、喜界島、徳之島、沖永良部島、与論島

番号	中項目	小項目とその目標、水準	地域	実施主体	個別の事業・取組	年度ごとの実施					
						2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	それ 以降	
I	自然や地域の文化を対象としたエコツーリズムの推進	1. 地域資源の再認識と共有化									
		目標 (今後5年間で到達すべき水準)	世界的に貴重な自然環境だけではなく、その自然と密接に関わる中で形成されてきた奄美独自の暮らしや文化は、エコツーリズムの重要な対象であり、学術的な視点のみではなく、地域の住民が「大切に守り伝えていきたいもの」など、地域の視点からも抽出し、広く共有することで、保全と活用を図る。								
		現在の取組状況	群島	奄美群島エコツーリズム推進協議会	○奄美群島エコツーリズム推進全体構想「自然観光資源」の選定【奄振交付金】 ・地域の住民が大切に守り伝えていきたい自然・文化資源の抽出			(H28全体構想策定済み)			
			群島	広域事務組合	○環境文化・集落ストーリーテキスト「奄美群島の残したいもの伝えたいもの」発行【奄振交付金】 ・人と自然との関わりを象徴する集落の営みに着目し集落マップやフェノロジーカレンダーを作成			(H30作成)			
			奄美大島	あまみ大島観光物産連盟	○「奄美歴史浪漫探訪」作成（地域振興推進事業） ・幕末・明治期をテーマとした周遊利用を促すパンフレット作成			(H30作成)			
			喜界島	喜界町、喜界島サンゴ礁研究所、WWF	○サンゴの島の暮らし発見プロジェクト ・喜界島サンゴ礁科学研究所やWWFと連携し、サンゴの環境教育、石垣修復体験等を実施						
			沖永良部島	和泊町	○世之主関連史跡の調査と北山文化圏ロード構築事業【奄振交付金】 ・世之主関連史跡調査の結果を活用し、北山文化圏（今帰仁村）の広域的な連携・交流を促進 (KPI：沖縄県からの入込客数：15,710人（R3年度）)						
			与論島	与論町教育委員会	○与論城跡の調査と活用						
与論島	NPO法人ヨロン島・尊々我無		○与論島ジオパーク認定に向けた取り組み ・島民向けジオサイト巡りを開催し機運醸成を図りながら、ジオパーク認定を目指す。								

番号	中項目	小項目とその目標、水準	地域	実施主体	個別の事業・取組	年度ごとの実施				
						2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	それ 以降
I	自然や地域の文化を対象としたエコツーリズムの推進	現在の取組状況	与論島	与論民俗村	○ユンヌフトゥバ教室 ・島内の20～30代の青年層を対象とした方言教室を開講し、方言継承に取り組む。					
		今後5年間にに向けた提言	●調査成果の報告・共有機会の拡大と継続的な活用 ・地域資源の再認識に係る調査・研究等の成果について、地元への報告・共有機会を拡大するための報告会等を行うとともに、成果の普及ツールとしての教材の開発等を行う。							
			●「見せるもの」「見せないもの」の検討・設定 ・集落等で奄美の深い魅力を体験することは観光客の満足度を高めることにつながるが、そのことにより受入側のコミュニティの良さが失われることがないよう、観光客に「見せるもの」「見せないもの」を地域において検討・設定する。							

番号	中項目	小項目とその目標、水準	地域	実施主体	個別の事業・取組	年度ごとの実施						
						2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	それ 以降		
I	自然や地域の文化を対象としたエコツーリズムの推進	2. エコツアーガイドの育成と利用促進										
		目標 (今後5年間で到達すべき水準)	亜熱帯の森や集落でのエコツアーは、奄美群島ならではの利用体験であり、適切な安全管理のもと質の高い自然体験等を提供し利用者の満足度を高めることが、奄美観光のブランド価値を高めることになる。そのため、ガイド人材の確保や資質向上のための取組を進める。あわせて、観光客に対してガイドの周知を図るなど、ガイド利用を促進することで、ガイドの社会的地位の向上や就業機会の拡大につなげていく。									
		現在の取組状況	群島	広域事務組合	○エコツアーガイド初期段階育成研修（H26～）【奄振交付金】 ・質の高いエコツアーガイドの量的確保、就業機会創出を目的とし、エコツアーガイドを目指す者に対して基礎的な知識や技術の習得を図るための研修							
			群島	奄美群島エコツーリズム推進協議会	○奄美群島エコツアーガイド認定制度の運用（H30～）【奄振交付金】 ・「奄美群島の自然・文化について深い知識を有し、来訪者に安全で質の高い体験を提供するとともに、地域の環境保全に責任を持つガイド」を認定							
			奄美大島	奄美大島エコツアーガイド連絡協議会	○ガイド組織による自主研修 ・ガイド自身のスキルアップのための自己研鑽として現地研修等を実施							
			奄美大島	瀬戸内町	島案内人育成事業 ・各集落の自然、文化、歴史及び産業等を学ぶ講座修了及び試験合格者を島案内人として認定							
			喜界島	喜界町	○喜界島エコミュージアムガイド養成事業【奄振交付金】 ・埋蔵文化財センターやサンゴ礁科学研究所等により年9回の講座を実施。ジオパーク推進の取組の一環として実施。 (アウトカム指標：エコミュージアムガイド数(R5):35人)							
			徳之島	徳之島エコツアーガイド連絡協議会	○ガイド組織による自主研修 ・ガイド自身のスキルアップのための自己研鑽として現地研修等を実施							
徳之島	徳之島虹の会		○エコツアーガイドブラッシュアップ事業 ・認定ガイドのスキルアップや初期段階育成研修のフォローアップ等を図るための実技研修（奄美群島民間チャレンジ支援事業）			(H29～30実施)						

番号	中項目	小項目とその目標、水準	地域	実施主体	個別の事業・取組	年度ごとの実施				
						2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	それ 以降
I	自然や地域の文化を対象としたエコツーリズムの推進	現在の取組状況	沖永良部島	和泊町	○西郷南洲まちあるきガイドの育成 ・「西郷どん」のゆかりの地を案内するガイドの育成	(H30実施)				
			与論島	与論町	○エコツアーガイド人材スキルアップ研修・ガイドテキスト作成【奄振交付金】 ・初期段階研修修了者やガイド等の更なる技能向上のための研修。テキストはガイド・観光関係者の共通理解を促すために広く配布	(H30実施)				
			与論島	与論町	○星空案内人の育成 ・2020年度開催の「星空の街・あおぞらの街全国大会」をきっかけとして、星空ガイドを養成。					
		今後5年間にに向けた提言		<ul style="list-style-type: none"> ●認定ガイドの資質向上に向けた認定制度の運用方法の見直し ・ガイドの質の確保・向上に資する認定・更新要件（講習、試験導入、ガイド実績、継続研鑽の仕組み等）やガイド資質向上に資するテキスト作成を検討する。 ●初期段階育成研修の受講生のフォローアップ ・初期段階育成研修の修了者がガイドとして活躍できるよう、継続研鑽の機会（有料自主研修、公民館講座等）の拡大など、研修後にモチベーションを保ちやすい仕組みを検討する。 ●島毎の自立（自律）したガイド育成の仕組みの検討 ・現在群島一律で実施しているガイド育成の取組等について、将来的に島のガイドによる、島毎の状況を踏まえたガイド育成の仕組みを構築する。初期段階の育成から認定ガイドまで島毎に一貫性をもって取り組む。 ●ガイド条例の検討 ・ガイドの位置づけや役割等を明確にしたガイド条例策定について検討する。 						



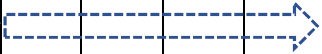





番号	中項目	小項目とその目標、水準	地域	実施主体	個別の事業・取組	年度ごとの実施					
						2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	それ 以降	
I	自然や地域の文化を対象としたエコツーリズムの推進	3. 自然等体験プログラムの充実									
		目標 (今後5年間で到達すべき水準)	奄美群島の類まれな生物や文化を実感できるプログラムの充実を図り、奄美ならではの観光スタイルの確立を目指す。そのため、亜熱帯の森での自然体験や、集落等における文化・生活体験など、奄美独自のコンテンツの充実を図る。								
		現在の取組状況	奄美大島	奄美市	○住用・笠利地区の集落・文化を活用した着地型観光メニューの造成支援・宿泊を伴う集落体験や節田マンカイ等の体験ツアー造成	→					
			奄美大島	宇検村観光物産協会	○集落資源の掘り起こしと担い手育成等による集落歩きの推進 地元学の実践で拾い上げた資源に基づき、語り部が集落を案内	→					
			奄美大島	大和村	○大和村まるごと体験事業【奄振交付金】 ・まるごと体験協議会設立、農業や漁業、島料理の調理などを体験できるプログラムモニターツアーとワンストップ窓口の設置準備、集落景観保全。後継者人材育成、民泊開業セミナーの開催等。(TAMASUが事務局) (アウトカム指標：体験事業による受入人数(R1)：384人)	→					→
			奄美大島	あまみ大島観光物産連盟	○奄美満喫ツアー助成事業 ・「体験プログラム利用促進助成」等による商品造成、新たな魅力・需要の掘り起こし	→					
			徳之島	徳之島虹の会	○国立公園ツアー、集落ツアー等の開発 ・新たなプログラムの検討とプレツアーによる検証。7プログラムを検討。 (奄美群島民間チャレンジ支援事業)						(H29~30実施)
			与論島	誇れるふるさとネットワーク	○与論島陸域ツアーの体系化・環境教育プログラム開発 ・大学生を対象とした環境教育合宿、夏の海以外のプログラムの体系化、拾い箱を中心とした環境保全活動に対する視察研修(奄美群島民間チャレ)						(H30実施)
			与論島	与論町	○星空ツアーメニューの開発 ・星空ガイドの育成と体験メニューの開発に取り組む	→					→
			群島	奄美群島観光物産協会	○あまみシマ博覧会の実施体制強化 ・プログラム通年化、WEB上での体験参加料収受システムの構築等	→					
今後5年間に 向けた提言	<ul style="list-style-type: none"> ●プログラム充実に資するガイドの育成・研鑽機会の拡大 ・奄美の自然・文化は人による案内・解説を通じて初めて理解できる資源が多いことから、案内を担うガイドや島民の育成を図る。 										

番号	中項目	小項目とその目標、水準	地域	実施主体	個別の事業・取組	年度ごとの実施					
						2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	それ 以降	
I	自然や地域の文化を対象としたエコツーリズムの推進	4. 適正利用のルールづくり									
		目 標 (今後5年間で到達すべき水準)	地域の関係者が協力して利用のルールを遵守することにより、自然環境等の保全を図る。 自主ルールに基づく取組のみでは、実効性確保が困難な状況が生じた場合には、特定自然観光資源や市町村の条例など強制力を持ったルール設定について検討する。								
		現在の取組状況	群島	各島のエコツアーガイド	○奄美群島エコツアーガイド自主ルール			(H24策定)			
			徳之島	アーガイド連	○徳之島エコツアーガイドに関するガイドライン			(H30策定)			
			与論島	絡協議会	○ヨロン島エコツアーガイド自主ルール			(H30改訂)			
			奄美大島	奄美クジラ・イルカ協会	○鯨類ウォッチング暫定自主ルール			(H23策定)			
					○ホエールスイム自主ルール			(H26策定)			
			奄美大島	奄美大島利用適正化連絡会	○金作原における利用ルール【奄振交付金】 ・自然環境保全・混雑緩和・安全確保等のため、金作原のツアー数の上限設定、認定ガイド同伴利用を呼びかけ			(H30より試行)			
			奄美大島	議	○三太郎線・スタルマタ線の利用適正化方策検討 ・夜間の動物観察のあり方・ルール等の検討			→			
			奄美大島	環境省、宇検村、大和村	○湯湾岳歩道の利用適正化方策検討 ・歩道利用のあり方・ルール等の検討			→			
			奄美大島	瀬戸内町	○請島大山入山ルール ・町規則に基づき、入山に際して、申請手続きを課すとともに、「池地集落みのり会」の同行を義務付け			(H18より運用)			
			奄美大島	大和村 国直集落	○国直集落の利用ルール ・キャンプや花火などについて集落独自のルールを設定 (R1策定)			→			
徳之島	徳之島利用適正化連絡会議	○山クビリ線における利用ルール【奄振交付金】 ・自然環境保全のため、徳之島町林道管理条例に基づき、山クビリ線を施錠し、利用台数制限、認定ガイド同行義務付け等を実施			(R1より運用)						
徳之島	林野庁、天城町、徳之島エコツアーガイド連絡協議会	○剥岳林道、三京林道の利用に関する協定 ・希少種保護等のため両林道の利用は原則としてエコツアーガイドを伴った入林のみに制限			(R1より運用)						

番号	中項目	小項目とその目標、水準	地域	実施主体	個別の事業・取組	年度ごとの実施					
						2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	それ 以降	
I	自然や地域の文化を対象としたエコツーリズムの推進	現在の取組状況	沖永良部島	ケイピングガイド	○沖永良部島洞窟保全ガイドライン【沖永良部島ケイピング協会、沖永良部島ケイピングガイド連盟】	(H23策定)					
		今後5年間に向けた提言	●特定自然観光資源の指定の検討			<ul style="list-style-type: none"> 現状の自主ルールに基づく取組のみでは、実効性確保や適正利用の実現が困難な状況が生じた場合には、エコツーリズム推進法に基づく特定自然観光資源や市町村の条例など強制力を持ったルール設定について検討する。 					
			●ナイトツアーのルール設定								

番号	中項目	小項目とその目標、水準	地域	実施主体	個別の事業・取組	年度ごとの実施						
						2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	それ 以降		
I	自然や地域の文化を対象としたエコツーリズムの推進	5. 適切なモニタリングと情報の活用										
		目標 (今後5年間で到達すべき水準)	エコツアーによる地域資源への影響、利用者の満足度、地域への経済効果等についてモニタリングを行い、点検評価の結果に応じて、資源管理や利用方法の改善を図る。									
		現在の取組状況	奄美大島 徳之島	世界遺産推薦地の管理機関	○世界自然遺産推薦地モニタリング計画の策定・運用 ・推薦地の保全状況について情報を収集し、科学的な評価を行い、適切な保護・管理に活用するための計画の策定・運用（令和元年度計画策定）							
			群島	奄美群島エコツーリズム推進協議会	○エコツーリズム推進全体構想に基づく自然観光資源モニタリング 「自然資源」「観光利用」「社会・経済」の各側面について、健全性を把握するための指標を設定し、エコツーリズムの効果と影響を検証							
			群島	奄美群島観光物産協会	○奄美群島観光振興基礎調査 ・観光客の動向把握、ニーズの把握、対策に向けた基礎データ収集							
			奄美大島	あまみ大島観光物産連盟	○交流人口動態調査 ・奄美大島を訪れた旅行者について旅行内容、満足度、今後の意向等を把握							
			群島	広域事務組合	○認定ガイドに対する満足度調査 ・認定ガイドのツアーに関する満足度・改善点を把握し、ガイドにフィードバックすることでガイドの資質向上を図る							
今後5年間に向けた提言	●エコツアーガイドのモニタリングへの参画 ・普段から自然地を利用するガイドが現地で得た情報等を収集・蓄積し、保全や適正利用の検討に活用する仕組みを構築する。											

番号	中項目	小項目とその目標、水準	地域	実施主体	個別の事業・取組	年度ごとの実施					
						2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	それ 以降	
II	エコツーリズムの戦略的な普及啓発	6. 地域住民の理解醸成									
		目 標 (今後5年間で到達すべき水準)	持続的観光地づくりには地元の理解や参画が重要であることから、世界自然遺産の価値、自然との密接な関わりの中で形成された文化等の価値、自然環境の保全と観光の両立を図るエコツーリズムの意義等について、地域住民に認識してもらえよう働きかける。								
		現在の取組状況	奄美大島	奄美大島エコツアーガイド 連絡協議会	○金作原子どもエコツアーの実施 ・利用適正化のルール設定とあわせて、島民向けの普及啓発にガイドが参画	→	→	→	→	→	→
			奄美大島	奄美大島自然保護協議会	○奄美大島子ども世界自然遺産講座 ・島内の小中学生を対象に、奄美と屋久島のそれぞれの地域の自然や自然保護に関する取組を現地で学び自然環境の保全と継承と心豊かなリーダー育成を目指す	→	→	→	→	→	→
			奄美大島	奄美大島自然保護協議会	○マンガプロジェクトによる啓発 ・奄美大島の陸域の自然を紹介するマンガ冊子を作成し、島内小中学校等に配布	→					
			奄美大島	大和村	○大和村世界自然遺産学習教室「やまと教室」 ・小中学生を対象とし、身近にある自然や文化を活用し体験活動を実施することにより郷土を正しく理解し、郷土への誇りと愛着を育む。	→	→	→	→	→	→
			奄美大島	宇検村	○マングローブ林再生の取組による環境教育 ・小学生を対象にマングローブの育苗、再生等の取組 (H26～)	→	→	→	→	→	→
			奄美大島	瀬戸内町	○こども世界自然遺産博士講座 ・身近な自然や動植物、世界自然遺産について学ぶ講座	→	→	→	→	→	→
			奄美大島	龍郷町	○子ども博物学士講座 ・奄美の魅力的な素材を活かした座学・体験活動を実施	→	→	→	→	→	→
			奄美大島	環境省	○夜間利用シンポジウム及び親子夜間観察会の開催 奄美大島の夜の自然と観光をテーマにして、夜の自然の魅力と課題を考えるシンポジウム及び親子夜間観察会の開催	→					
奄美大島	環境省		○環境文化シンポジウム及び集落歩きを開催 ・大人を対象とし、各地域の環境文化の掘り起こしと全体への普及を目指したイベント開催と記録冊子を作成 (H29～)	→							

番号	中項目	小項目とその目標、水準	地域	実施主体	個別の事業・取組	年度ごとの実施				
						2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	それ 以降
II	エコツアー リズムの戦略 的な普及啓 発	現在の取組状況	徳之島	徳之島町	○われんきゃガイド育成 ・総合的な学習の時間を活用して、集落案内のための学習と実践					
			徳之島	天城町・天城町教育委員会	○世界自然遺産学習「あまぎ学」 ・町内の小中学校にて総合的な学習の時間を活用し、徳之島・天城町の自然や文化などの世界的価値について学ぶ世界自然遺産学習を実施。					
			徳之島	天城町兼久小学校区	○われんきゃガイド育成					
			徳之島	阿権集落・校区	○島っ子ガイド学習 ・総合的な学習の時間を活用して、集落案内のための学習と実践					
			沖永良部島	和泊町	○ちむぐる教育 ・和泊町の小学校では肝心（ちむぐる）教育として、地域の文化やたすけあいの精神を伝えている。					
			沖永良部島	ファンゲル塾	○えらぶトウギョの里プロジェクト ・絶滅の恐れがあるトウギョの保全を図り、島の宝として未来へと引き継ぐことを目的とする。トウギョを地域の自然環境のシンボルとして、保全活動等を通じて子どもたちや住民が郷土愛を育てていく。 (日本ユネスコ協会の「プロジェクト未来遺産2017」に登録)					
		今後5年間にに向けた提言	<p>●大人向けの普及啓発の機会の拡大と普及啓発教材の開発</p> <p>これまで地域の将来を担う子供向けの勉強会・観察会等が多く行われてきたが、あわせて大人向けの普及啓発の取組を拡大する。また、そのために普及啓発教材を作成する。</p>							

番号	中項目	小項目とその目標、水準	地域	実施主体	個別の事業・取組	年度ごとの実施					
						2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	それ 以降	
II	エコツーリズムの戦略的な普及啓発	7. 自然利用のルールの周知									
		目 標 (今後5年間で到達すべき水準)	地域の自然や文化に関する利用のルールやマナーについて、観光利用者に対する周知・徹底を図る。								
		現在の取組状況	群島	鹿児島県	○奄美群島マナーガイド【奄振交付金】 ・奄美群島の自然や集落を楽しむ際の観光利用者のマナーを掲載			(H30改訂)			
			奄美大島 徳之島	鹿児島県	○普及啓発クリアファイル【奄振交付金】 ・マナーを記載したダブルポケット式クリアファイルを作成。レンタカー事業者に配布し、契約書類の封入等に活用してもらうことで、観光利用者に対する周知・徹底を図る			(R1改訂)			
			与論島	与論町	○「KEEP THE ISLAND YORON」作成【奄振交付金】 ・島口による島の自然・文化の紹介とマナー啓発動画 (アウトカム指標：与論島への入込客数 (R5) : 90,000人)			→			
		今後5年間にに向けた提言	●既存施設等における自然利用等に関する情報発信機能の強化・拡充 ・島の入口部等の施設において、来島者が最初に奄美の自然や自然利用のマナーを知ることができるような情報発信を行う。								
		8. エコツーリズムの地域社会・経済への効果の見える化									
		目 標 (今後5年間で到達すべき水準)	エコツーリズムが地域の持続的発展に貢献しうることが地域全体が共有・認識できるよう、地域社会・経済や環境保全への貢献について見える化を図る。そのため、利用者アンケート調査等を活用し、観光・エコツーリズムによる経済効果を算出するとともに、ガイドによる地域貢献などの間接的な効果を分かりやすく提示する。								
		現在の取組状況	実績なし								
		今後5年間にに向けた提言	●奄美群島観光振興基礎調査等を活用した経済効果の把握・明確化 ・エコツーリズムが地域にどの程度の経済効果をもたらしているかについて、奄美群島観光振興基礎調査等によるデータを活用して把握し、分かりやすく提示する。								
●ガイドによる地域貢献活動の見える化 ・エコツーリズムによる直接的な経済効果のみではなく、ガイドによる外来種駆除活動など地域貢献等の役割・効果が見える化することで、エコツーリズムの認知やガイドの社会的地位の向上を図る。											

番号	中項目	小項目とその目標、水準	地域	実施主体	個別の事業・取組	年度ごとの実施						
						2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	それ 以降		
II	エコツアー リズムの戦略 的な普及啓 発	9. 自然地域の利用による収益の一部を環境保全や地域社会への還元する仕組みの構築										
		目 標 (今後5年間で到達すべき 水準)	エコツアーガイド等が、自然地域等の利用によって得られた収益の一部を、自然環境の保全や地域社会に還元する仕組みを検討する。直接的な利益還元だけでなく、外来種駆除等の保全活動への参加、知識や情報を活かした環境保全へのアドバイス、モニタリング調査への協力など様々なかたちでの利益還元も推進し、自然地域を活動の場とする観光事業者としての責任を果たすことを目指す。									
		現在の取組状況	奄美大島	奄美大島エコ ツアーガイド 連絡協議会	○ガイドによる外来種駆除 ・ガイド連絡協議会が自らのフィールドである自然地や、集落周辺において外来種駆除を実施							
			奄美大島	奄美大島エコ ツアーガイド 連絡協議会	○金作原子どもエコツアーの実施 ・利用適正化のルール設定とあわせて、島民向けの普及啓発にガイドが参画							
			与論島	ヨロン島エコ ツアーガイド 連絡協議会	○ガイド連絡協議会による観光スポットの清掃							
今後5年間に 向けた提言	●エコツアーガイドのモニタリングへの参画（再掲） ・普段から自然地を利用するガイドが現地ですぐに得た情報等を収集・蓄積し、保全や適正利用の検討に活用する仕組みを構築する。											
	●ガイドによる島民向けの観察会等の開催 ・島民が地元の自然や文化の価値を理解・体感するためガイドによる観察会等を開催する。特に自然地域の利用適正化のルール設定により、島民が自然に触れる機会が減少することがないように、島民向けの普及啓発にガイドが協力する。											
	●利用による収益が保全の資金として確保される仕組みの検討 ガイドや観光事業者が自然地を利用した収益の一部を還元したり、利用者負担による保全資金の確保の仕組みについて検討する。											

番号	中項目	小項目とその目標、水準	地域	実施主体	個別の事業・取組	年度ごとの実施					
						2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	それ 以降	
III	利用のゾーニングの検討	10. 利用のゾーニングの検討									
		目標 (今後5年間で到達すべき水準)	自然環境の負荷軽減と利用者の満足度向上を図るため、包括的管理計画における遺産区域・緩衝地帯・周辺管理地域毎の観光利用の方針や公園計画等を踏まえて、どこでどのような体験を提供するのかといった具体的な場所（エリア）ごとの利用のあり方を検討し、地域で共有を図る。その際には、自然環境の容量と特性に応じたエリア毎のルール設定、施設整備、体験プログラムの提供等を促す。								
		現在の取組状況	群島	鹿児島県	○持続可能観光マスタープランの策定【奄振交付金】 ・奄美群島の持続的な観光利用を進めるための「計画的な観光管理」の方針			(H27策定)			
			奄美大島	奄美大島利用適正化連絡会	○金作原における利用ルール【奄振交付金】（再掲） ・自然環境保全・混雑緩和・安全確保等のため、金作原のツアー数の上限設定、認定ガイド同伴利用を呼びかけ			(H30より試行)			
			奄美大島	議	○三太郎線・スタルマタ線における利用ルール（再掲） ・夜間の動物観察のあり方・ルール等の検討			→			
			奄美大島	環境省、宇検村、大和村	○湯湾岳歩道における利用ルール（再掲） ・歩道利用のあり方・ルール等の検討			→			
			徳之島町	徳之島利用適正化連絡会議	○山クビリ線における利用ルール【奄振交付金】（再掲） ・自然環境保全のため、徳之島町林道管理条例に基づき、山クビリ線を施設し、利用台数制限、認定ガイド同行義務付け等を実施			(R1より運用)			
今後5年間にに向けた提言	<ul style="list-style-type: none"> ●エリア毎の利用のあり方検討 <ul style="list-style-type: none"> ・島毎の利用の現状と課題を踏まえて、「何処を守り、何処でどんな利用体験を提供する」といったエリア毎の利用あり方を検討する。特に利用が集中し、悪影響が生じている、または悪影響が生じる可能性のあるエリアについて、利用の実態を把握するとともに、希少動物を観察するナイトツアーのあり方についても検討する。 ●特定自然観光資源の指定の検討（再掲） <ul style="list-style-type: none"> ・現状の自主ルールに基づく取組のみでは、実効性確保や適正利用の実現が困難な状況が生じた場合には、エコソールズ推進法に基づく特定自然観光資源や市町村の条例など強制力を持ったルール設定について検討する。 										

番号	中項目	小項目とその目標、水準	地域	実施主体	個別の事業・取組	年度ごとの実施						
						2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	それ 以降		
IV	世界自然遺産センター等と連携した周辺環境整備	1 1. 遺産の価値を体感する施設の整備										
		目標 (今後5年間で到達すべき水準)	遺産区域への利用の集中を防ぎつつ、世界遺産の価値の象徴である亜熱帯の森の魅力を多くの利用者が体験できる機会を提供するため、遺産区域の外側等において、比較的気軽に奄美の森を体験することができるフィールド等の整備を図る。									
		現在の取組状況	奄美大島	環境省	○世界遺産センターの設計・整備 ・世界自然遺産の保安全管理や普及啓発に関する拠点施設の整備							
			奄美大島	環境省	○湯湾岳の展望施設の基本計画検討 ・湯湾岳の適正利用ルールの設定と合わせた展望施設整備の検討							
			奄美大島	宇検村	○湯湾岳展望公園再整備 ・展望台等再整備							
			奄美大島	大和村	○アマミノクロウサギの保護飼育施設の検討【奄振交付金】 ・傷病クロウサギの保護飼育と生態展示施設の検討 (アウトカム指標：奄美野生生物保護センター来館者数：20,000人)							
			徳之島	環境省	○天城岳（松原線）の施設整備検討 ・世界遺産の価値を体感できる歩道整備の検討							
			徳之島	天城町	○アマミノクロウサギの里整備事業【奄振交付金】 ・アマミノクロウサギ観察小屋の再整備			(H30実施済み)				
今後5年間にに向けた提言	●遺産価値の体感・理解を促進する施設整備の検討 ・世界遺産の森において質の高い自然体験を提供するため、遺産価値の保全に配慮した適正利用のルール確立を前提として、遺産の価値を体感・理解できる施設の整備を検討する。整備に際しては、遺産価値である希少野生動植物等の生息・生育環境に配慮した工法を採用するなど、世界自然遺産に相応しい工法・内容を検討する。											

番号	中項目	小項目とその目標、水準	地域	実施主体	個別の事業・取組	年度ごとの実施						
						2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	それ 以降		
IV	世界自然遺産センター等と連携した周辺環境整備	1 2. 遺産区域外で利用者の満足度を高める施設・環境の整備										
		目 標 (今後5年間で到達すべき水準)	遺産区域への利用の集中を防ぎつつ、多くの利用者が世界遺産の価値の象徴である亜熱帯の森の魅力を体験できる機会を提供するため、遺産区域の外側等において、比較的気軽に奄美の森を体験することができるフィールド等の整備を図る。									
		現在の取組状況	群島	鹿児島県	魅力ある観光地づくり事業 ・大和サンセットパーク（国直）整備（大和村） ・敬天愛人発祥の地周辺整備（和泊町）			→				
			奄美大島	奄美市	○奄美博物館の展示リニューアル ・環境文化を全体のテーマに奄美の海・里・山を解説			→				
			奄美大島	奄美市	○あやまる岬の観光拠点整備 ・奄美大島北部地域の観光振興を目的とした休憩、交流施設等の整備拡充			→				
			奄美大島	奄美市	○重点道の駅としてのマングローブパークの機能強化 ・観光情報発信や外国人対応機能の強化・拡充			→				
			奄美大島	宇検村	○宇検村体験観光多目的交流施設整備事業 ・幅広い屋内外体験活動プログラムの構築により滞在型の観光客を誘致、宿泊施設の稼働率の増加を図る。主に、体験観光の案内を行う。			→				
			奄美大島	瀬戸内町	○諸鈍デイゴ並木の樹勢回復事業 ・観光シンボルである諸鈍デイゴ並木の再生			→	→			
			奄美大島	龍郷町	○奄美自然観察の森再整備【奄振交付金】 ・奄美の森を気軽に楽しめる利用拠点。展示施設や園路等リニューアル（アウトカム指標：年間来園者数（R3）：20,000人）			→				
			奄美大島	龍郷町	○龍郷町環境文化型体験・交流事業（民泊を核とした奄美らしさ体験促進事業）【奄振交付金】 秋名・幾里集落において、両集落の民家を活用した民泊などの地域住民主体の観光事業活動を支援。（アウトカム指標：同地区への年間延べ宿泊者数（R5）：500人）			→				
徳之島	天城町		○大和城観光地連携整備事業【奄振交付金】 ・大和城周辺の園地整備や滞在施設整備等を進め、観光客等の利便性向上を図る（アウトカム指標：島別入込客数（R5）：132,000人）			→	→					

番号	中項目	小項目とその目標、水準	地域	実施主体	個別の事業・取組	年度ごとの実施					
						2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	それ 以降	
IV	世界自然遺産センター等と連携した周辺環境整備	現在の取組状況	徳之島	徳之島町	○観光活性化に向けた観光地整備事業 ・受け入れ態勢充実に向けて「徳之島町観光施設整備事業基本計画」を2017年度に策定。計画に基づき年次的に観光施設を整備。	→	→	→	→		
			徳之島	徳之島町 天城町	○多言語解説案内板整備事業 ・観光庁の「地域観光資源の多言語解説整備支援事業」及び環境省「国立公園等資源整備事業費補助金」などを申請・活用し、外国人が理解しやすい	→	→	→	→		
			沖永良部島	和泊町	○フーチャ園地歩道再整備 ・隆起サンゴの潮吹洞窟を鑑賞する観光拠点。園地・歩道等リニューアル	→	→				
			沖永良部島	知名町	○田皆岬の園地歩道再整備 ・隆起サンゴ断崖を鑑賞する観光拠点。園地・歩道等リニューアル	→	→				
			沖永良部島	知名町	○知名町の交流拠点整備【奄振交付金】 地元住民の暮らしの中心エリア（＝町のヘソ）に観光客との交流拠点を整備。思いがけない体験にであう「島らしい観光スタイル」の構築を図る （アウトカム指標：①地元住民と会話をした回数（R1）：5回） （アウトカム指標：②関係を持ちたい出会いがあった割合（R1）：5%）	→					
			与論島	与論町	○大金久海岸一帯の老朽化施設の再整備【奄振交付金（一部）】 ・奄美群島第代表する海の利用拠点。遊歩道等改修整備 （アウトカム指標：与論島への入込客数（R5）：90,000人）	→	→	→	→		
			与論島	与論町	○光害対策 ・星空環境に係る外灯の光害対策。		→	→	→	→	
		今後5年間にに向けた提言	●奄美の森の魅力を高める施設整備の検討 ・森林の探勝利用等の価値を引き出すため、吊り橋など新たな視点から奄美の森を楽しむことができる施設の整備などを検討する。								
			●海岸や道路沿いについて奄美らしい景観づくり ・来島者が国立公園・世界自然遺産の島としての印象を損なうことがないように、国道58号等の主要路線沿いや海岸等について、奄美らしい景観の創出を図る。また、良好な景観を保全するための担保措置として景観条例または景観計画を策定する。								
			●希少植物などのシェルター・見本園等の整備検討 ・保護された希少植物や、島の人々が取扱いに困っているラン等を受け入れて栽培・展示する植物見本園のような施設の整備について検討する。								


番号	中項目	小項目とその目標、水準	地域	実施主体	個別の事業・取組	年度ごとの実施					
						2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	それ 以降	
IV	世界自然遺産センター等と連携した周辺環境整備	13. トレイルの活用									
		目 標 (今後5年間で到達すべき水準)	世界自然遺産奄美トレイル等を活用し、群島固有の自然や文化に歩いてふれる利用を推進する。また、島から島へと人を誘導して遺産登録効果を波及させ、地域活性化や島々のつながりの強化を図る。								
		現在の取組状況	群島	鹿児島県	○世界自然遺産 奄美トレイルの推進【奄振交付金】 ・奄美群島固有の自然と文化の理解を促進し、島から島へと人を誘導し、群島全体の地域経や産業振興に資する。令和3年度までに全線開通予定						
			群島	南海日日新聞社	○奄美群島のノルディック・ウォーク事業の開発と展開（奄美群島民間チャレンジ支援事業）						
			奄美大島	宇検村体育協会	○世界自然遺産 奄美トレイルを活用したウォーキング大会の開催						
			徳之島	伊仙町	○世界自然遺産 奄美トレイルを活用したウォーキング大会の開催						
			沖永良部島	おきのえらぶ島観光協会	○世界自然遺産 奄美トレイルを活用したサイクリングプログラムの提供						
			与論島	ヨロンSC	○世界自然遺産 奄美トレイルを活用したヨロンパナウル健康ウォーク						
			与論島	よろんフットパス倶楽部	○世界自然遺産 奄美トレイルを活用したフットパスコースの設定 ・R1年度コース設定設定済						
今後5年間にに向けた提言	<ul style="list-style-type: none"> ●トレイル利用の安全管理 <ul style="list-style-type: none"> ・遭難やハブなどに対する利用者の安全管理策の強化・徹底を図る。 ●トレイルを活用したプログラムづくり <ul style="list-style-type: none"> ・健康づくり、古道の活用、二次交通等に注目・留意しプログラムづくりを行う。 										



番号	中項目	小項目とその目標、水準	地域	実施主体	個別の事業・取組	年度ごとの実施						
						2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	それ 以降		
V	外来生物対策、希少種への人為的影響の防止、自然再生	14. 外来生物対策の推進										
		目標 (今後5年間で到達すべき水準)	既に定着している侵略的な外来種について、侵入状況等を把握し、特に対策の必要性が高い種に焦点を絞り、対策を行う。各島に未定着な侵略的外来種の目撃情報について情報収集する。また、定着を予防するため必要に応じて対策を講じる。									
		現在の取組状況	群島	鹿児島県	○県条例に基づく指定外来動植物に関する規制 ・県が制定した条例の運用							
			奄美大島 徳之島	環境省、鹿児島県、奄美大島・徳之島8市町村、地元関係団体	○侵略的外来種への対策強化 ・ツルヒヨドリ等特定外来生物の調査及び防除 ・外来種に関する情報収集、普及啓発 ・多様な主体による外来種の駆除							
			奄美大島	環境省	○マングース防除 ・希少種の捕食等により在来の生態系に大きな影響を及ぼしているマングースの防除							
			奄美大島、 徳之島	環境省、鹿児島県、奄美大島・徳之島8市町村、地元関係団体	○ネコ対策の実施【奄振交付金】 ・幅広い情報共有及び合意形成を行い、希少種生息域（森林内）のネコについて、捕獲、一時収容、譲渡等に関する一連の体制を整備し、排除を行う ・飼い猫の遺棄・逸出の防止、不妊措置、所有者明示等の適正飼養や、飼い猫以外のネコへのみだりな餌やり防止を図る (アウトカム指標：不妊手術件数 (R5) : 1030匹)							
奄美大島	奄美市 大和村 宇検村 瀬戸内町	○ヤギ被害防除対策事業【奄振交付金】 食害により希少種を含む生態系への悪影響が懸念されるノヤギの被害防除 (アウトカム指標：ノヤギの捕獲頭数 (R5) : 165頭)										
今後5年間にに向けた提言	●観光客による外来種の非意図的導入の防止 ・人や物資に付着・混入した外来種の侵入・拡散を防止するため、港・空港や登山口等での普及啓発や靴底洗浄等の水際対策を講じる。											



番号	中項目	小項目とその目標、水準	地域	実施主体	個別の事業・取組	年度ごとの実施						
						2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	それ 以降		
V	外来生物対策、希少種への人為的影響の防止、自然再生	15. 希少種の交通事故対策、密猟・盗採防止等										
		目標 (今後5年間で到達すべき水準)	希少野生動物の交通事故の発生リスクが高い場所の周知、標識の設置、チラシ配布やキャンペーン実施等による普及啓発や道路改良により、交通事故をなくす。また、行政が中心となり、地元団体や警察等と連携しながら密猟・盗採防止パトロールや普及啓発を行う。									
		現在の取組状況	群島	環境省	○種の保存法に基づく国内希少野生動物植物種の保護				→			
				鹿児島県、市町村	○希少野生動物植物保護条例に基づく希少野生動物植物の保護 ・県及び市町村が制定した条例の運用				→			
			奄美大島 徳之島	文部科学省、農林水産省、環境省、鹿児島県、市町村、地元関係団体等	○保護増殖事業の継続実施 ・アマミノクロウサギ、アマミヤマシギ、オオトラツグミ ○保護増殖事業対象外の希少種の保護増殖 ・ケナガネズミ、アマミトゲネズミ、トクノシマトゲネズミ等				→			
				環境省、奄美群島希少野生生物保護対策協議会、奄美大島自然保護協議会、徳之島地区自然保護協議会、地元関係団体、世界遺産推進共同体等	○密猟・盗採防止のためのパトロール等 ・パトロールの実施、センサーカメラ設置 ・警察と連携した監視体制強化 ・普及啓発看板の設置 ・密猟・盗採防止キャンペーンの実施 ・空港での密猟・密輸対策に関する研修会 ・国有林への車両の進入規制 ・関係機関の情報共有				→			
				環境省、鹿児島県、市町村、動物病院等	○アマミノクロウサギ等の傷病鳥獣の救護				→			
				環境省、林野庁、鹿児島県、奄美大島自然保護協議会、徳之島地区自然保護協議会、地元関係団体等	○希少野生動物の交通事故対策 ・看板や減速帯等の設置 ・チラシ配布等のキャンペーン ・交通事故件数の広報誌での公表等 ・国有林への車両の進入規制				→			
		今後5年間にに向けた提言	●交通事故対策のさらなる推進 ・減速帯の増設、リアルタイムで希少種の存在を知らせる仕組みや速度超過対策等について検討する。									
			●船での希少種の持ち出し防止策の検討 ・希少種の持ち出しに関して、手荷物検査等の状況を踏まえると、船での持ち出しリスクが高いと懸念されるため、港での持ち出し対策について検討する。									
●ペット同伴利用のルール・マナー等に関する検討 ・自然性の高い地域におけるペット同伴利用は生態系や野生動物に影響を与える恐れがあるため、ペット同伴利用のルールについて検討する。												

番号	中項目	小項目とその目標、水準	地域	実施主体	個別の事業・取組	年度ごとの実施					
						2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	それ 以降	
V	外来生物対策、希少種への人為的影響の防止、自然再生	16. 自然環境保全・自然再生									
		目標 (今後5年間で到達すべき水準)	奄美群島の多様で固有性の高い自然及び自然と密接に関わってきた地域文化の保全・再生を図る。また、保全や再生の過程自体も観光・エコツーリズムのテーマとして活用することを検討する。								
		現在の取組状況	奄美大島	奄美大島自然保護協議会 (ヤジ分会)	○リュウキュウアユの生息環境再生の取組 ・産卵床の整備、コイ等の外来種駆除、カワウによる食害調査等 (地域振興推進事業)	→					
			群島	奄美群島サンゴ礁保全対策協議会、市町村	○サンゴ礁保全対策事業等におけるオニヒトデ・シロレイシガイダマシの駆除及びモニタリング、サンゴ再生に向けた調査・移植試験等 【奄振交付金】 (アウトカム指標：サンゴ礁被度 (R5)：①H28比5%以上上昇120カ所以上②H28比5%以上低下11カ所以下③60%以上73カ所以上)	→					
			与論島	誇れるふるさとネットワーク	○美ら島プロジェクト365 ・島の海岸を毎日清掃						(H26~28実施)
			与論島	与論町	○「拾い箱」の取組 ・人が来るほどキレイになる砂浜を目標に海岸ごみを拾って投入する「拾い箱」を設置 (H28~)	→	→	→	→	→	→
			与論島	海謝美(うんじゃみ)	○海岸清掃ボランティア活動 ・毎朝、海岸漂着ごみの清掃を行う。誰でも自由に参加でき、観光客の参加も可能。清掃場所は前日にブログ上で配信。	→					
			今後5年間にに向けた提言	●保全型体験ツアーの造成 ・自然環境の保全や再生の取組、自然に関する調査等を素材としたプログラムを開発する。 ●奄美の身近な自然やかつての暮らしを学ぶ環境文化型ビオトープの創出検討 ・かつての段々畑、水田跡等の環境を再現するなど、小川、沢、草原、伐採地などを含んだ標高差のある巨大ビオトープを創出し、様々な生き物の観察や、自然と関りの深い奄美の暮らしを学ぶフィールドとして活用する。							

番号	中項目	小項目とその目標、水準	地域	実施主体	個別の事業・取組	年度ごとの実施						
						2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	それ 以降		
VI	地域の総合 産業としての 観光の推 進	17. 他産業への波及効果を生むプログラム										
		目 標 (今後5年間で到達すべき 水準)	観光による経済効果を他の産業へと広く波及させる取組を進める。観光客にとって自然環境のみではなく、自然との関わりから生まれた文化や生業も大きな魅力であり、農林水産物、大島紬等の伝統工芸、豊かな食文化等を活用し、総合産業としての観光を目指す。									
		現在の取組状況	奄美大島	大和村	○大和村集落まるごと体験事業【奄振交付金】 ・農業・漁業・島料理等を素材とした体験プログラム開発、飲食・宿泊との連携した村の観光窓口の一元化 (アウトカム指標：体験事業による受入人数(R1)：384人)			→	→	→	→	→
			徳之島	徳之島町	○島料理を提供するお店のマップ作成			→				
			沖永良部島	おきのえらぶ 観光協会	○おきのえらぶ島産業クラスター創出拠点整備事業 ・地域住民、島出身者や観光客等との交流機会を戦略的に作り出し、沖永良部発の新産業の創出・既存産業の高付加価値化につなげる。 ○農家等と連携した体験プログラムの開発			(H29まで事業実施)				
今後5年間に向けた提言	●第一次・第二次産業と連携したプログラムや特産品の開発 ・第一次・第二次産業への波及効果を生むためのプログラムや特産品等を開発する。観光客との直接的なかわりがない農業者等が観光を意識するきっかけづくりとして、観光客向けの地場産品を活用したお弁当(例：西表島のエコ弁)づくり等を検討する。また、農泊等と連携するなど幅広い主体の参画によるサービスの提供を目指す。											

番号	中項目	小項目とその目標、水準	地域	実施主体	個別の事業・取組	年度ごとの実施					
						2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	それ 以降	
VI	地域の総合産業としての観光の推進	18. 集落歩きとエコツアーガイドとの連携									
		目標 (今後5年間で到達すべき水準)	自然と人との関わりから生まれた暮らしや営みを体験するためには、実際に自然と対峙しながら生業を営む農林漁業者や集落の住民自らが案内することで、より深い奄美の理解へとつながることが期待される。そのため、エコツアーガイドと集落ガイド等が連携・棲み分けを図り、より魅力的なツアーを創りだす。その際にエコツアーガイドは、参加者のニーズを踏まえ、現地の案内人と参加者のコミュニケーションを円滑に取り持つ役割を果たす。								
		現在の取組状況	喜界島	よんよーり喜界島	○よんよーり喜界島の定例会による情報共有 ・シマあるきガイド、エコツアーガイド、観光関係者による情報共有・意見交換						
		今後5年間にに向けた提言	●縁側喫茶など集落内の休憩・交流施設の整備検討 ・集落内に休憩所等を設け、特産品の販売を行うこと等により、観光客やエコツアー参加者などの来訪者と地域との交流の場になるとともに、地域に収益をもたらす仕組みを構築する。								
		●エコツアーガイドと集落との調整の仕組みの構築 ・エコツアーガイドが集落と来訪者とを結びつける役割を担ったり、集落の暮らしに悪影響が生じないように集落散策等が行えるような利用方法を取り決めるなどの調整の仕組みを構築する。									
		●集落側の案内人の組織化（瀬戸内町島案内人等） ・集落案内は、その集落にゆかりのある人が案内することが重要。集落を案内できる人材の登録・リスト化を行い、案内人を紹介できる仕組みを構築する。									

番号	中項目	小項目とその目標、水準	地域	実施主体	個別の事業・取組	年度ごとの実施							
						2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	それ 以降			
VII	実効性のある観光管理の仕組みの構築	19. DMO等との連携											
		目標 (今後5年間で到達すべき水準)	奄美観光の窓口となる観光協会・DMO等とガイドとの連携を強化することで自然の容量等に応じて来訪者を計画的に誘導する仕組みを構築する。										
		現在の取組状況	奄美大島	あまみ大島観光物産連盟	○金作原利用適正化実証実験の際の受付窓口試行 ・実証実験では、認定ガイド同伴利用及びツアー数の上限設定を試行し、認定ガイドからのツアー実施の受付と調整をWEBカレンダーを活用して実施	(H29試行)							
			徳之島	徳之島3町、徳之島観光連盟等	○徳之島のDMO組織化検討 ・DMO組織化に向けて検討継続								
			与論島	与論町、ヨロン島観光協会等	○与論島のDMO組織化検討 ・2019年度、ヨロン島観光協会が一般社団法人化（DMO組織化）								
今後5年間にに向けた提言	●ガイドツアーの予約等を担う一元的な窓口の設置により適正利用を促す仕組みの検討 ・DMO等がガイド紹介・ツアー販売の窓口となることで、利用状況を一元的に把握し、利用の集中回避等に配慮しつつ予約を受け付けるなど、自然の容量等に応じて観光客を計画的に誘導する仕組みを検討												

番号	中項目	小項目とその目標、水準	地域	実施主体	個別の事業・取組	年度ごとの実施						
						2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	それ 以降		
VII	実効性のある観光管理の仕組みの構築	20. 奄美の自然環境の保全と適正な利用を推進する連携体制や組織の構築										
		目 標 (今後5年間で到達すべき水準)	自然環境保全や適正利用のための適切な管理が遂行されるよう、関係機関の密接な連携・協力のもと、一体となった取組を進める。									
		現在の取組状況	奄美大島 徳之島	世界遺産推薦地の管理機関等	○「世界自然遺産候補地地域連絡会議」「奄美大島部会」「徳之島部会」の設置 ・世界遺産推薦地の保全管理に関する管理機関、関係団体、NPO等が参加する連絡調整の場							
				行政、関係団体等	○「奄美大島自然保護協議会」、「徳之島地区自然保護協議会」の取組 ・希少野生動植物の保全、自然保護に関する取組（外来種駆除、パトロール等）、普及啓発、調査等							
今後5年間に向けた提言	<p>●自然環境の保全と適正な利用の実現を担う人材・組織の育成・強化</p> <p>自然環境の保全と適正な利用の推進を担う組織の運営能力（人的体制、資金確保等）を強化するとともに、組織間の連携や協働によるモニタリングの仕組み等を構築し、地域全体で管理能力の向上を図る。また、将来的に自然環境の保全と適正な利用の推進をコーディネートする組織等の必要性やあり方について検討する。</p>											